

---

# 騎士達の宴

玄知

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

騎士達の宴

### 【Zコード】

N4060B

### 【作者名】

玄知

### 【あらすじ】

自分の剣を捧げた人の為。故郷の為。平和の為。誇りの為。7人の騎士達は戦い続ける。

## 新たな風

何かを始めるには何かが終わらなければいけない。歴史が同じ事を繰り返すのはそのせいなのかもしない。この話しがその終わりと始めに生きた者達の話しだ。

物語の舞台であるハインラントには騎士道というものがあった。王に忠誠を誓い、女性には優しく、そして誇りを大切にする生き方である。

このハインラントでは戦争が起きバン・ザルバ王が率いるファラント国と、ハイネ・オルテンシア女王が率いるソレイル国が雌雄を争っていた。

しかしファラント国にはラクスという猛将があり、必ず戦争前の一騎打ちでソレイル国が負けるために戦意が落ちソレイル国は負け続けた。しかしソレイル国には一騎打ちには強くないが指揮能力が高く知力がある騎士達がいたために潰滅的な打撃はくらわなかつた。しかし徐々に領地を失いはじめていた。

ファラント国がソレイル国から奪つた領地にいた市民達は、三等市民と呼ばれ税も多くとられ歎き悲しんでいた。

元ソレイル国の土地ナスラ村にまだ騎士になれない歳の若者達が二人いた。

「な、スコール最近ちゃんとした飯食つたか?」

「いや、あんまり食つてない…ギルの家はどうだ?」

「俺んちも最近はどんどん食べる量が減つてるよ」

「はあ…」

今、二人同時にため息をしたのはスコールとギルランダだ。一人と

も家が近く兄弟のように仲が良かつた。

「また狩りにでも行くか！」

ギルランダはそう意気こんだがスコールは、

「前みたいな事は嫌だぞ」

と、言い放つた。

「たしかに……」

4日前に行つた時は収穫が〇で、逆に動きすぎて飢えてしまった。

「でも今日は良い予感がするんだ」

「ギル…お前の予感はあてにならない」

「いや！今日は信じてくれ！夢をみたんだ」

「夢？」

「そうだ！俺は空たかく浮いていて雲のせいで何も見えなかつた。でもお前が馬にのり凄い勢いで駆けたおかげで雲は晴れた。そしてお前は獲物を捕らえて俺の方に向かって獲物を見せてくれた」

「…………」

「なんか反応しろよ」

「そんなに狩りに行きたいのか？」

「ああ」

「じゃあ行くか」

「一応言つておくが嘘じやないぞ」

「分かつた、分かつた。じゃあ昼を食べ終わつたら東門の前で」

「分かつた。じゃあ後で」

「またな」

そして二人の若者達は馬に乗り今東門からでよつとしている。物語は、まだかまだかと始まりを急いでいる。

## 新たな風（後書き）

良かつたら感想を下さい m(ーー) m 今回が初めて書いた作品です。  
最後まで読んで頂けたら幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4060b/>

---

騎士達の宴

2010年12月30日12時11分発行